

Key talk discussion

パネルディスカッション

「ICI CAMPに期待することは？」

■浅羽——ICIのような試みを続けるには、前田建設にとってそれが“良いプロジェクト”であることが大切です。この施設自体が、前田建設はもちろん建設業界全体にとっても意味があることなんだという点が、きちんとピックアップされていると、うまくいくのではないかと期待しています。

■井手——今日のイベントに参加してみて、前田建設さんが建設業界に留まらず、さまざまなお仕事をされていることがよくわかりました。特に、映画化の話は“ぶっ飛んで”いて、今後の建設業界のトレンドになってみんな映画化するんじゃないかと思うくらいです。とてもいい刺激をいただきました。

■江頭——映画のタイトルにもある「ファンタジー」という言葉には「大変だけど、とりあえずやってみよう」というニュアンスもあります。ICIを通して向き合おうとしている「建設業を一度解体して将来図をみんなで作ろう」というファンタジーな取り組みが、実を結べるようなプラットフォーム作りを期待します。

■西川——『前田建設ファンタジー営業部』に対して、建設業界を中心に多くの方から「映画は久しく見てないけれども、これだったら見に行こう」という反応をいただいています。他業種の方々と出会ったり、普段接しない方々と会話したりすることで、新たな考え方や発想に結び付くことも多いので、映画振興のためにも、ICI キャンプには、私たちの仲間も招き入れていただけたらうれしいなと思っています。

■原田——ゼネコンが造るこういう施設の面白いところは、フィジカルな点だと思います。何か具体的なもので会話が起こり、刺激を受け、それを具体的なじゃないシステムや法律のことにフィードバックしていく——ICI が、そういう抽象的な世界とフィジカルな世界を繋ぐ創発的な場となり、起こるメッカになってほしいなと考えています。

■日比野——アートの製作現場では時に、さまざまなものが繋がっていくときに感じるワクワクする気持ちがあります。ICI でも、さまざまなものが連続して繋がっている実感があります。これからもアートを通して多分野にわたる社会的課題に取り組んでいき、ICI の施設や、そこに集まる企業と組んで進めていきたいと思っています。

■前田——皆さんのお話にもありましたが、ICI での取り組みを見て、「何か建設会社っぽくないですね」と、よく言われます。今、われわれの存在意義と役割自体を再定義する時期にさしかかっていますが、それを実現するには一社だけでは難しいと思います。いろいろな分野の方々とコラボレーションして、新しい価値を創造していくことが求められています。そのひとつのインフラプラットフォームがこのICI であり、ICI キャンプなのではないかと考えています。

前田建設工業株式会社
代表取締役社長

前田 操治

